

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2023年度)

専門分野区分	データベース	科目名	SQL I					科目コード	T1310B4	
配当期	前期	授業実施形態	通常					単位数	2 単位	
担当教員名	武田 春美	履修グループ	2C(KS)					授業方法	演習	
実務経験の内容	<p>資材メーカーのシステムエンジニアとして、5年間にわたり在庫管理システムの開発・運用業務を担当した。その後、ITコンサルタント企業で顧客の販売管理システムの開発・運用業務を6年間実施した。これらの経験を生かし、実務に必要な表作成、関数、データ管理機能について実践的に授業展開を行う。</p>									
学習一般目標	<p>IT市場においてはシステム構築、運用、管理において管理性、拡張性、コスト効率がより求められる。その需要に対応するのが「Oracle Database 12c」である。3つの特徴「リソースの有効活用」「自動管理機能による管理・運用の効率化」「柔軟性と拡張性」をもつ。これらの特徴を備えた総合管理ツールである同製品の技術者を育成する。</p>									
授業の概要および学習上の助言	<p>基本的なSQL SELECT文の作成、INやLIKEなどの演算子を利用したデータの検索条件を定義する。各種関数でデータを加工、複数の表の結合や副問い合わせ、データ操作、オブジェクトの作成および管理について学ぶ。各章ごとにある実習問題を通してSQL文を習得してほしい。</p>									
教科書および参考書	SQL第2版 ゼロから始めるデータベース操作									
履修に必要な予備知識や技能										
使用機器	パソコン機器									
使用ソフト	Oracle									
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が到達すべき行動目標								
	1	データベースの基本的な概念を理解し、説明できる								
	1/2	SQL文を使用したデータベースの操作ができる								
	3	なし								
	4	なし								
	5	講義と実習に意欲をもって取り込むことができる								
達成度評価	評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	学部DP	1.知識・理解	30			30				60
		2.思考・判断	30							30
		3.態度								
		4.技能・表現								
		5.関心・意欲							10	10
総合評価割合	60				30			10	100	
評価の要点										
評価方法	評価の実施方法と注意点									

試験	定期試験期間中にペーパー試験を実施する。 SQLの穴埋め、SQL文の実行結果などを問う。 ※プリント資料や教科書の持ち込み有り ※パソコンやスマートフォンなどの情報端末機器の持ち込みは不可
小テスト	
レポート	
成果発表(口頭・実技)	各章ごとに実習(1～5)を出題する。
作品	
ポートフォリオ	
その他	出席回数、態度など総合的に判断する。

授業明細表

授業回数	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回	1章～2章 データベースとSQL 検索の基本	講義・実習	実習1(2章)
第2回	2章 検索の基本	講義・実習	実習1(2章)
第3回	2章 検索の基本(WHERE句)	講義・実習	実習2(3章)
第4回	2章、3章 検索の基本(WHERE句) 集約と並べ替え(ORDER BY句)	講義・実習	実習2(3章)
第5回	6章 関数、述語、CASE式(数値関数、文字関数)	講義・実習	実習4(4章・5章)
第6回	6章 関数、述語、CASE式(日付関数)	講義・実習	実習4(4章・5章)
第7回	6章 関数、述語、CASE式(変換関数)	講義・実習	実習4(4章・5章)
第8回	6章 関数、述語、CASE式(汎用関数)	講義・実習	実習4(4章・5章)
第9回	6章 関数、述語、CASE式(条件式)	講義・実習	実習4(4章・5章)
第10回	3章 集約と並べ替え(グループ関数)	講義・実習	実習4(4章・5章)
第11回	3章 集約と並べ替え(GROUP BY句)	講義・実習	実習5(6章)
第12回	3章 集約と並べ替え(HAVING句)	講義・実習	実習5(6章)
第13回		講義・実習	実習5(6章)

第14回	課題解決型授業 I 実習3	遠隔授業 実施時期:1期	授業内容を復習
第15回	課題解決型授業 I 問題解決方法を考える	遠隔授業 実施時期:3期	別途指示